

実施日:令和 5 年 10 月 15 日(日) くもり
参加者:37 名
講師:相原嘉之氏(奈良大学 文学部准教授)

奈良大学・古都飛鳥保存財団 連携イベント「飛鳥京から平城京を辿る」Part3

午前の部

雨を心配していましたが、雨はやみ、日差しも少なく歩きやすい天候でした。まずは奈文研の資料館前で集合しました。

今回は、FMトランスミッターで、相原先生のお声を各自のFMラジオに飛ばす方法を採用しました。ラジオの周波数合わせに苦労しましたが、定刻通り出発し、しばらくして大極門(南門)に到着。その後、復元建設中の東楼を見学しました。建設中の東楼では階段を登り、朝堂院の広場や近鉄電車の線路、朱雀門まで見晴らしの良い景色が眺められました。

そして第一次大極殿。奈良時代に天然痘が流行り聖武天皇が平城京をあちらこちら出まわられるまでの大極殿で、藤原宮から移築建築された後、恭仁京に移されたようです。当時の工法で復原されて、中には高御座の復元模型もありました。その後、第二次大極殿跡へ向かいました。第二次大極殿は奈良時代後半の大極殿です。下層に大安殿跡があり、大安殿を大極殿に建て替えた様子です。北には内裏跡がありその北側に平城天皇陵がみえました。平城天皇陵は元々前方後円墳で、平城京建設の折に前方部が削平されて後円部だけが残されています。平城京建設以前の古墳ですので、平安時代の平城天皇の墓であるはずはありません。

第二次大極殿跡の後、推定宮内省跡を見学。築地塀の中に役人業務を行う掘立柱建物が復原されていました。遺構展示館で自由時間をとり昼食。午前中のウォークは終了しました。



午後の部

昼食・自由時間の後、遺構展示館を出発して東院庭園に。東院庭園は奈良時代の庭園遺跡を復原した庭園です。庭園遺構は明日香村の「飛鳥京跡苑池」から「東院庭園」へとつながり、池泉回遊式の日本庭園につながっています。自然との調和をはかった日本人の精神構造は変わらないものですね。東院庭園の見学後は壬生門跡。壬生門跡の北西には兵部省跡、北東には式部省跡の2つの全く同じような役所跡が並んでいます。兵部省とは武官の管理・人事を行う役所で、式部省は文官の管理・人事を行う役所です。壬生門の真北方向の遠くに平生天皇陵が見え、その手前に午前に行った第二大極殿跡が眺められます。壬生門から西へ行き、朱雀門につきました。近鉄電車の車窓からいつでも眺めることのできる門ですが、近くで見ると大きな建築物です。朱雀門前の広場は朱雀大路。道路幅は左右の溝を含めると80m近くある大路です。実際の往来にはその道幅は必要なく、朝廷の儀式や外国使節の送迎など示威的な目的で建設されたようです。

朱雀門でウォークは終了し、イベント最後は「いざない館」の多目的室で相原先生講義での座学の時間です。この講座・・・予定時刻を超え実はスタッフは焦っていました。実はイベント前の打ち合わせで、相原先生が「何分くらい時間オーバーしても大丈夫かな・・・」とぼそぼそとおっしゃっていたので、元々時間オーバー覚悟・・・確信犯だった気がします。でも参加者の方々には時間オーバーも大好評でたっぷりの講座を受けて満足のお声。本当に相原先生、奈良大学の学生スタッフの皆様方、参加された方々ありがとうございました。またご協力頂きました平常宮跡歴史公園、管理センターの方々にも大感謝です。イベント終了後には衛士隊による朱雀門閉門の儀も見学できました。

